

演目 『車僧』

行番	役	詞章	現代語訳	トークのヒント
1	シテ	所からここハ浮世の嵯峨なれや	この場所の名は嵯峨、浮世のさが (習い)と、名で縁がある場所。	大天狗対車僧のバトルシーン。
2		雪のふるみち跡深き	雪が深く降り積もっているので、	
3		車の轍は足引の	車は	
4		大雪にハよも行かじ	大雪で動かないと思っていたのに。	
5	地	げに雪山の道なりと	釈迦の修行された雪山でも	雪山成道(せっせんじょうどう) 釈迦は雪山で修行し悟りをひらいた。
6		法の車路平かに	法力の高い車ならやすやすと	
7	シテ	行くかゆかぬか此原の	走ったという。この原の	
8	地	草の小車雨添へて	車も同じだ。	
9	シテ	打てども行かず	太郎坊が打つと進まず	
10	地	とむればすすむ此車の	止めれば進む此車。	
11		法乃力とて	法力の力があるのだ。	
12		嵯峨小倉大井嵐の	嵯峨、小倉、大井川や嵐山の	
13		山河を飛び翔つて	あちこちの山河を飛びかけ、	
14		眩惑すれども騒がばこそ	太郎坊が車僧を惑わそうとしても 車僧は騒ぐ様子もない。	
15		まことに奇特の車僧かなあら貴や恐ろしやと	これは珍しい僧だ。貴くも恐ろしい。	
16		魔障を和らげ大天狗ハ	太郎坊は仏法を妨げる魔の心を和らげて、	
17		合掌してこそ失せにけれ	合掌して立ち去った。	

① 【車僧の物語】

鎌倉時代、牛を繋がない車を、法力の力だけで

自在に動かすので〈車僧〉と呼ばれる

禅僧・深山禅師(ワキ)がいました。

ある冬の日、車に乗り嵯峨野の景色を

眺めていると、愛宕山に住んでいる

天狗の頭領・太郎坊(前シテ)が山伏に姿を変え

現れます。車僧を魔道に誘いこもうと

禅問答を挑みますが車僧は動じません。

太郎坊は自分の住む愛宕山を訪ねよと

言い残して飛び去ります。

季節は真冬、愛宕山は雪が積もっています。

車僧が愛宕山に着くと

本来の大天狗の姿をした太郎坊(後シテ)が

現れ、車僧に法力比べを挑みますが
法力の力で牛がなくても動くだけでなく
車僧は車で空を飛びます。
車を自在にあやつる車僧の法力の力を見て
珍しく、貴く恐ろしい僧だ、敵わない、と
観念して立ち去ります。

② 【冬の能】

雪が降り積もる嵯峨野が舞台です。
法の力、いわば超能力を使う車僧。
仕舞の部分は超能力者対大天狗の
大雪の中でのバトルシーン
といったところでしょうか。